

第63回日本リウマチ学会総会・学術集会

## 市民公開講座

# リウマチ診療はこんなに進んだ

日時：2019年5月19日(日) [開場] 13:00 [開演] 14:00

会場：仙台国際センター 大ホール

### プログラム

#### ■ 講演 ■

座長： 山中 寿 (東京女子医科大学医学部膠原病リウマチ内科学講座)  
石黒 直樹 (名古屋大学大学院 医学系研究科総合医学専攻  
運動・形態外科学講座整形外科学)

講演 **1** 関節リウマチ治療の進歩 ～内科の立場から～  
土橋 浩章 (香川大学 医学部・医学系研究科内科学講座 血液・免疫・呼吸器内科学)

講演 **2** 関節リウマチの最新トータルマネジメント ～整形外科の立場から～  
石川 肇 (新潟県立リウマチセンター リウマチ科)

#### 休憩

講演 **3** 小児リウマチ性疾患の特性と治療の最前線  
宮前多佳子 (東京女子医科大学病院膠原病リウマチ痛風センター 小児リウマチ科)

講演 **4** 最近の膠原病治療の進歩  
石井 智徳 (東北大学病院 臨床研究推進センター/東北大学 血液免疫科(血液・免疫病学分野))

パネルディスカッション Q&A

## 講演1

### 関節リウマチ治療の進歩 ～内科の立場から～



土橋 浩章 どばしひろあき (香川大学 医学部・医学系研究科内科学講座 血液・免疫・呼吸器内科学)

略歴：			
平成 4年3月	香川医科大学医学部医学科 卒業	平成 17年	香川大学医学部内科学講座第一内科学・助手
同年	香川医科大学医学部附属病院・研修医 勤務	平成 18年	香川大学医学部内科学講座第一内科学・講師
平成 5年	香川労災病院内科 勤務	平成 26年	香川大学医学部 血液・免疫・呼吸器内科学 講師
平成 7年	香川医科大学医学部附属病院・医員 勤務	平成 29年	香川大学医学部 血液・免疫・呼吸器内科学 准教授
平成 8年	国立病院機構 宇多野病院		現在に至る
平成 13年	米国 national Institute of health associated fellow	所属学会：	日本内科学会、日本リウマチ学会、日本免疫学会、日本アレルギー学会
平成 14年	香川医科大学医学部附属病院・医員 勤務		日本ステロイドホルモン学会、日本骨形態計測学会、日本臨床免疫学会
平成 15年	香川大学と香川医科大学が統合される。		

ひと昔前のリウマチ治療は、つらい症状を抑えることが中心でした。しかし、現代では有効とされるさまざまな治療薬が登場し早期に適切な治療をすれば、健康な時と同じような生活が期待できます。関節リウマチでは発症から約2年間を「Window of opportunity (治療機会の窓)」と呼び、治療効果を上げるチャンスとしています。この期間に適切な治療を行うことで、寛解の可能性が格段にアップし関節破壊を防ぐことができます。内科的治療の中心は薬物療法で抗リウマチ薬を用います。メトトレキサートという薬剤や最先端のバイオテクノロジーが生んだ生物学的製剤などの適切な使用で健康な時と同様の生活が望めます。本セミナーでは内科的な薬物療法の現状と問題点に加え、患者さんからしばしば頂く「発症しても仕事は続けられる？」や「治療中の妊娠・出産は可能？」などのご質問に解りやすくお答えしたいと思います。

## 講演2

### 関節リウマチの最新トータルマネジメント ～整形外科の立場から～



石川 肇 いしかわはじめ (新潟県立リウマチセンター リウマチ科)

略歴：			
1982年 3月	山形大学医学部卒業、4月 新潟大学医学部整形外科学教室入局	所属学会：	日本整形外科学会 (リウマチ委員長)、
1983年 4月	新潟大学医学部附属病院および関連病院勤務		日本リウマチ学会 (理事)、
1991年 4月	新潟県立瀬波 (セナミ) 病院リウマチセンター、整形外科医長		日本関節病学会 (理事)、日本手外科学会、
1995年 11月	米国 ミシガン州立大学留学、リサーチ スカラー		米国手外科学会 (国際メンバー)、
1998年 4月	新潟県立瀬波病院リウマチセンター、整形外科部長		欧州リウマチ外科学会 など
2006年 11月	新潟県立リウマチセンター、診療部長		
2013年 4月	同、副院長		
2018年 4月	同、院長 新潟大学医学部医学科臨床教授 兼任		

標準化された RA の薬物療法で疾患活動性がコントロールされても患者さんにとって長期的な QOL を最大限にまで改善しようとは限りません。感染症をはじめ様々な併存疾患、高齢、経済的負担などのために、いまだ十分な薬物治療が施されず“からだ”と“心”の病に苦しむ患者さんが依然としてみられています。「社会生活を健康な人と同じようにできる」という患者さんのアンメットニーズ (まだ充足されていない要求) に応えるために整形外科リウマチ医による手術治療介入は、患者さんに多大な福音をもたらす有効な手段のひとつです。これからは、1) 各年代の生活やライフイベントに応じたトータルマネジメント (薬物療法、手術療法、リハビリテーション、ケアの4本柱) を内科と整形外科のリウマチ医が協働して推進していくこと、2) 多職種によるチーム医療、専門病院とかかりつけ医との間で“顔が見える連携”をとって患者さんを支えていくことが大切です。

### 講演3

## 小児リウマチ性疾患の特性と治療の最前線



宮前多佳子 みやまえ たかこ (東京女子医科大学病院膠原病リウマチ痛風センター 小児リウマチ科)

学歴・職歴:		専門: 小児リウマチ性疾患・膠原病・自己炎症疾患
1994年	横浜市立大学医学部卒業	
1994年	同付属病院臨床研修医	
1996年	横浜市立大学医学部小児科講座入局	所属学会: 日本小児科学会(専門医・指導医)、 日本リウマチ学会(専門医・評議員)、 日本小児リウマチ学会(理事)
2002年	米国シンシナチ大学付属こども病院小児リウマチ部門留学	
2002年~2007年	米国ピッツバーグ大学付属こども病院小児リウマチ部門留学	
2011年	横浜市立大学医学部小児科講座講師	
2013年	東京女子医科大学膠原病リウマチ痛風センター 講師	
2018年	同病院膠原病リウマチ痛風センター小児リウマチ科	

成人で発症するリウマチ性疾患の多くを小児も発症します。同じ病名でも成人とは病態が大きく異なる場合、病名に“若年性”とつけられます。症状や経過などに特有の傾向があり、治療選択には成長期ならではの配慮が必要となります。

主な小児リウマチ性疾患には、慢性関節炎をおこす若年性特発性関節炎(JIA)、諸臓器とくに小児では腎炎を伴う全身性エリテマトーデス(SLE)、特徴的な皮疹と筋力低下を呈する若年性皮膚筋炎(JDM)などがあります。本邦の有病率は小児人口10万人あたり、JIAが8.8人、SLEが4.7人、JDMが1.7人と報告されています。

古くから、これらの疾患の治療にステロイドが使われてきました。しかし、近年、免疫抑制剤、抗リウマチ薬、生物学的製剤の普及により、ステロイドの必要量を最小限に抑え、疾患活動性もより低く維持できるようになりました。

本日は小児リウマチ性疾患の特性と最新の治療について解説させていただきます。

### 講演4

## 最近の膠原病治療の進歩



石井 智徳 いしい とも のり (東北大学病院 臨床研究推進センター / 東北大学 血液免疫科(血液・免疫病学分野))

略歴:	平成元年3月	東北大学医学部医学科卒業
	平成7年12月1日	東北大学医学部 臨床検査診断学講座 助手
	平成10年4月	ダナファーマー癌研究所 / ハーバード大学客員研究員
	平成12年12月	東北大学病院 血液免疫科 助手
	平成19年10月	東北大学病院 血液免疫科 講師
	平成21年5月	東北大学大学院 血液免疫科 准教授
	平成26年12月	東北大学病院 臨床研究推進センター 実施部門 特任教授
所属学会:	日本内科学会 総合内科専門医・認定医・指導医、日本リウマチ学会 専門医・指導医・評議員、日本免疫学会、日本臨床薬理学会	

多くの膠原病は、以前と比較し格段に予後が改善しています。それは主に従来ある治療薬の使用法の進歩が大きく関与しています。特に使用法が改善した薬剤は、今でも多くの膠原病治療の中心であるステロイド剤です。ステロイド剤は病気の原因も結果も抑える強力な薬剤ですが、長期的投与で多くの副作用があり、これが死因と密接に関連していました。この薬剤を必要最低限に抑える工夫が予後の改善に影響し、その工夫の一つが免疫抑制剤の併用でした。最近、製薬技術が進歩し、疾患において中心的な役割を担っている蛋白質だけを特異的に制御することができる薬剤が、新たな免疫抑制剤として出現してきました。現在は、関節リウマチ治療において革命的といわれた、こうした薬剤が、他の膠原病にも応用されようとしている過渡期です。疾患によってもその進歩はばらつきがある、こうした新薬開発の現況と今後の期待を述べたいと思います。

### パネルディスカッション

**【謝 辞】**

第63回日本リウマチ学会総会・学術集会 市民公開講座開催にあたり、下記の団体・企業よりご共催、ご後援、ご支援いただきました。ここに厚く御礼申し上げます。

**【後 援】**

厚生労働省、宮城県、仙台市、公益社団法人日本医師会、公益社団法人宮城県医師会、  
一般社団法人仙台市医師会、公益社団法人日本リウマチ友の会、一般社団法人全国膠原病友の会

**【共 催】**

株式会社仙台放送